

いわたしお

1962年生まれ。絵本作家、メディアアーティスト。テレビ番組やゲームソフトの制作などで活躍したのち、2008年に絵本『100かいだてのいえ』で第3回書店員が選ぶ絵本大賞を受賞。



絵本『100かいだてのいえ』作者のいわたしおです。今年の6月ごろ西尾市立図書館の方から、にしお本まつりで講演会や原画展などができないか相談をいただきました。実は、僕はにしお本まつりのことをこれまで知らず、過去の様子を聞いて、とても面白そう！参加したい！と思っていたのですが、コロナの感染拡大で中止になってしまいました。とても残念です。コロナが落ち着いたなら、また声をかけていただけたらうれしいです。

にしお本まつりには参加できませんでしたが、西尾市立一色学びの館では11月20日から来年1月10日まで「いわたしお展『100かいだてのいえ』と手作りおもちゃの世界」を開催します。最新作の『もりの100かいだてのいえ』の原画展示とともに、子どもと作った手作りおもちゃなどをたくさん展示します。ぜひ見に来てくださいね！

展覧会について、くわしくはこちらをどうぞ！

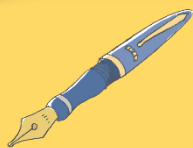
展覧会ホームページ：<https://isshiki-ccp.jp/event/entry-618.html>

ワークショップ：<https://isshiki-ccp.jp/event/entry-619.html>

さて、僕が生まれ育った西尾には、絵本にまつわる思い出がたくさんあります。その中で、にしお本まつりで講演会をやることになったら、ぜひ話そうと思っていた、とっておきの本屋さんの話をここに書いておきます。



最新刊
『もりの100かいだてのいえ』



西尾の思い出の本屋さん

僕が高校生だった1970年代の終わり頃、西尾にお気に入りの本屋さんがありました。西尾駅の東口からほど近い路地にあった「本のいえ いすず」という、とても小さな本屋さんです。そこは、当時としては珍しい、「子どもの本専門店」をうたったお店でした。僕は、吉良町の自宅から西尾高校まで自転車通学をしていて、そのお店はちょうど帰りにふらっと立ち寄るのに便利な場所にあり、ちよくちよくのぞいては、絵本の新刊などをチェックしていました。その頃の僕は、特にピーターラビットやトールキン、安野光雅がお気に入り、特に安野さんの『天動説の絵本』が発売された時は、あまりに美しい絵や装丁にドキドキしながら買ったのをよく覚えています。何も買わないときも、お店の奥さんは僕にとっても気さくに話しかけてくれて、福音館書店や偕成社などの最新の出版目録を分けてくれたりしました。その頃もらった目録やチラシを、僕は今でも大事にとってあります。

僕は当時、密かに心の中で、「いつか絵本を描いてみたい！」と思っていたのですが、そのお店は僕の絵本への夢をどんどん膨らませてくれる最高に素敵な場所でした。僕が絵本作家になるのは、それから30年も後になるのですが、その頃大きく、大きくふくらんだ夢があったからこそ、30年経てもしぼまずについに絵本を描けたのではないかと、思っています。全国でも、まだまだ数少なかったはずの子どもの本の専門店が、たまたま西尾の、それも家への帰り道近くにあったことは、今考えると偶然にしては大きすぎる神様からの贈り物だったと思えます。

実は、高校を卒業して上京してからは、一度もそのお店に行く機会はありませんでした。ついに絵本作家になってから、ふと自分の原点である「本のいえ いすず」を思い出して、8年ほど前にお店のあった場所へと行ってみたのですが、看板だけは残っていたものの、とうの昔にお店は閉めた様子でした。(残念ながら、その建物も、今はもう取り壊されてしまったようです)

お店のかたに、お礼が言えなかった代わりにここに書きます。あの頃、足繁くお店に来ていた絵本好きの男子高校生は、30年経って絵本作家になりましたよ！夢をふくらませる、素敵な時間と空間と絵本との出会いを、本当にありがとうございました！

絵本作家 いわたしお